

「12年間を通してのキャリア教育を目指して」

兵庫県立東はりま特別支援学校
主幹教諭 越田典子

1 取組の内容・方法

(1) はじめに

本校は知的障害児を対象とした学校として、平成21年4月に開校した。校訓「明るく 正しく 元気よく」を掲げ、将来、社会の一員として主体的に参加し、自立できる力を育成するとともに、「生きる力」を育てることを目標としている。図1は本校のキャリア教育 発達段階表である。各学部のスローガンは小学部「がんばる子になろう!」、中学部は「まなぶ人になろう!」、高等部は「はたらく人になろう!」を掲げて取り組んでいる。また、小学部は「基本的な生活習慣を身につける段階」、中学部は「生活経験・社会体験を広げる段階」、高等部では「社会生活・職業生活をする力を身につける段階」ととらえ、スモールステップを踏んで身につけるように指導している。

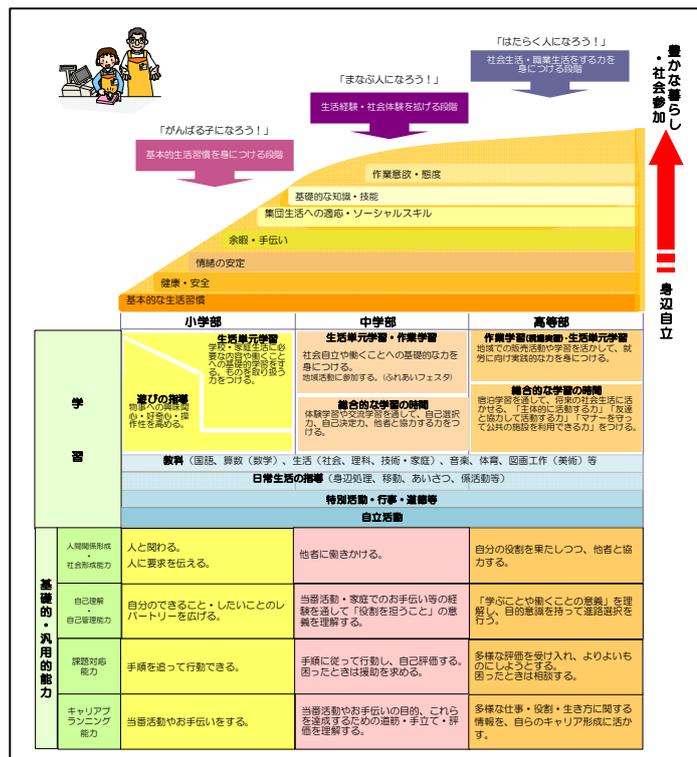


図1 キャリア教育発達段階表

(2) 進路指導部としての取組

1 ~就労に向けて育成すべき児童生徒の力~

「はたらく人になろう!」というスローガンを具体的にチェックするため、「就労に向けて育成すべき児童生徒の力」を作成した。これは小学部1年から高等部3年までの12年間にわたり、児童生徒の社会で働くために必要な力を確認するための評価表である。小学部では「体力」「あい

項目	小学部			中学部			高等部		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
体力									
仕事をこなす忍耐力									
あひさつ									
わからないと言えない									
素直にあやまることができる									
危険なことを認知できる									
時間を守る									
対人関係スキル									
就労後の働きの協力									

評価: A:目標を達成する学校がなかった。 B:目標を達成。 C:目標の達成に近づいている。 D:目標までもう少し。 E:目標までまだ余力が豊富

できる」「危険なことを認知できる」の4項目を5段階で評価する。中学部では、小学部で評価した4項目に3項目「わからないと言える力」「時間を守る」「対人関係スキル」を加え、7項目を評価。さらに高等部では「仕事に対する忍耐力」「持ち場を離れない」「就労後の保護者の協力体制」の3項目を加え10項目を評価している。評価実施者が変わっても同じ評価結果になるように、評価基準を設けた。

(3) 進路指導部としての取組 2 ～清掃検定～

愛媛大学教育学部附属特別支援学校が平成23年に出版した『将来の「働く生活」を実現する教育』に「着替え」の手順書が掲載されており、小学部からポイントを押さえた学びを継続することで、確実に力をつけることができることが示されていた。そこで本校では、企業・作業所の行き先に関わらず、どこにいても必要な「清掃」の手順書を作成したいと考えた。学校全体で統一した「清掃」の手順書を作ることで、小・中・高一貫した指導ができることと、教員が同じ視点で指導し続けることができれば、重度の生徒でも高等部卒業時には清掃する力を身につけることができるからである。さらに、校内検定を実施し得点化し表彰すれば、児童生徒のモチベーションも上がるのではと考えた。

児童生徒対象の清掃検定を行うためには、まず、教員の清掃に対する共通認識が必要であると考え、清掃会社の方から学ぶ研修会を開催した。プロの方から学ぶ清掃は、「ほうきの持ち方」「ほうきの動かし方」からまったく違っており、驚くことばかりであったが、すべて理にかなった清掃方法であった。(この清掃研修は、教室とトイレの2種類を、平成24年度から毎年、夏季休業中を利

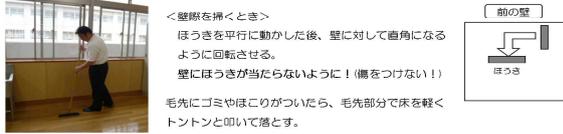
	3.0	A	B	C	D	E
体力	評定基準を超えて、ペースを落とさず走り続ける。	持久力が向上するが、長時間は走り続けることができない。	持久力が向上するが、長時間は走り続けることができない。	持久力が向上するが、長時間は走り続けることができない。	持久力が向上するが、長時間は走り続けることができない。	持久力が向上するが、長時間は走り続けることができない。
日々の仕事を円滑にこなすための体力	5項目のうち4項目が達成される。	5項目のうち3項目が達成される。	5項目のうち2項目が達成される。	5項目のうち1項目が達成される。	5項目のうち0項目が達成される。	5項目のうち0項目が達成される。
仕事をこなす忍耐力	自分のペースで仕事をこなすことができる。	自分のペースで仕事をこなすことができる。	自分のペースで仕事をこなすことができる。	自分のペースで仕事をこなすことができる。	自分のペースで仕事をこなすことができる。	自分のペースで仕事をこなすことができる。
あいさつ	挨拶が丁寧で、相手と目を合わせる。	挨拶が丁寧で、相手と目を合わせる。	挨拶が丁寧で、相手と目を合わせる。	挨拶が丁寧で、相手と目を合わせる。	挨拶が丁寧で、相手と目を合わせる。	挨拶が丁寧で、相手と目を合わせる。
わからないと言える力	わからないことを積極的に尋ねることができる。	わからないことを積極的に尋ねることができる。	わからないことを積極的に尋ねることができる。	わからないことを積極的に尋ねることができる。	わからないことを積極的に尋ねることができる。	わからないことを積極的に尋ねることができる。
時間を守る	決められた時間に到着し、作業を完了させる。	決められた時間に到着し、作業を完了させる。	決められた時間に到着し、作業を完了させる。	決められた時間に到着し、作業を完了させる。	決められた時間に到着し、作業を完了させる。	決められた時間に到着し、作業を完了させる。
持ち場を離れない	決められた持ち場を離れない。	決められた持ち場を離れない。	決められた持ち場を離れない。	決められた持ち場を離れない。	決められた持ち場を離れない。	決められた持ち場を離れない。
対人関係スキル	人と協力して作業ができる。	人と協力して作業ができる。	人と協力して作業ができる。	人と協力して作業ができる。	人と協力して作業ができる。	人と協力して作業ができる。
就労後の保護者の協力支援	保護者の協力支援を受けることができる。	保護者の協力支援を受けることができる。	保護者の協力支援を受けることができる。	保護者の協力支援を受けることができる。	保護者の協力支援を受けることができる。	保護者の協力支援を受けることができる。

表2 就労に向けて育成すべき児童生徒の力 評価基準

【2 教室清掃】

1 教室の右側前方より、奥へ掃き掃除

上側の手の親指で、ほうきの柄の先端を押さえる。(柄の動きのコントロールのため)
ほうきの毛先を床からはなさないよう、軽く押さえるようにして掃く。(押さえ掃き)



2 ゴミを回収 1カ所にゴミを集め回収。



ほうきの毛先の前半分をちりとりの中に入れてるようにしてゴミをとる。(毛先全体をちりとりにつけるとゴミが筒縁からこぼれてしまう)

教師用手順書



清掃研修の様子

用して新転任者向けに実施続けている。)

次に清掃検定項目、手順書、評価基準等を2年かけて作成した。

清掃検定の種目は、障害の重い生徒でもステップアップが感じることができる種目ということで、①拭きそうじ(机拭きも含む)、②雑巾洗い、③自在ぼうきの3種類、特に②雑巾洗いは、初級編、中級編1(雑巾を広げて洗う)、中級編2(雑巾を持ち上げたまま洗う)の3段階用意した。

手順書等の見直しは随時行っている。まず、平成27年度の見直しでは、小学部の検定表「点数制=級」をなくし、個人個人が到達したラインと次の課題がわかるような検定表に変更した。また、中学部・高等部の検定表でも「できない=0点」のマイナスになる項目は削除、生徒自身が「次はこれにチャレンジする」気持ちになるように変更した。

また目的も見直し、拭き掃除が難しい児童生徒について考慮し、自分自身や身近な場所を「拭いてきれいにしたら気持ちがいい」「役に立った」と感じられるような取り組みを目的とすることを追加した。

連絡指導部

清掃検定実施の手引き

清掃検定するに当たり、年度当初からそれに向けた手順で指導していただきたいと思います。また、清掃検定開始当初より、学年や担任が変わることや清掃の手順や方法が変わり、児童生徒が混乱することのないように、基本的な様子は統一していただきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

拭きそうじ	拭きそうじの場所(机、白板、かがみ、床、廊下など)、使う道具の種類(おせん、タオル、雑巾、雑巾モップなど)、取り組む順序は、児童生徒の実態に合わせて担任が決めてください。児童生徒の実態に合った条件で、「拭きはじめの位置に道具を置く」「拭き出す順番」「注目でやる」「拭いていない隅の隅を拭く」という観点で行っていただきたいと考えています。上記の拭きそうじが難しい児童生徒については、自分自身や身近な場所を「拭いてきれいにして気持ちがいい」「役に立った」と感じられるような取り組みを担任の先生と相談して決めてください。
雑巾洗い	雑巾洗いは、票ほりま方式として2種類の洗いを標準としています。 ① こすり洗い もみ洗いが難しい児童生徒については、 流水の下で雑巾を手にこする(こすり)洗い方 (こすり洗いとも呼んでいます)をしてください。流水の下で行うと、思った以上にきれいになります。色しる、もみ洗いよりきれいになるかもしれません。絞るときは、できるだけ四角になるように持つよう意識させてください。そのために、雑巾を横に二つ折りし、さらに縦に二つ折りにすると、持ちやすく扱いやすい形になります。 ② もみ洗い 軽度の生徒でも、しっかり洗わず残らずに持っていることが多いです。もみ洗いをするときは、 洗面面を乾かしながら、全体をしっかりと洗う ことが必要です。ゴミが雑巾の中に入ったままになっていることも多いので、この洗い方の順番、かなり注意が必要となります。

清掃検定実施の手引き

検定項目		雑巾洗いA					
検定日	年 月 日	東はりま特別支援学校 学部 年 組 名前					
検定の観点		評 価 (当てはまるところに○を記入)					
		物陰と一緒に	声かけて	指差して	目印等を使って	手順書を持って	自分で
		1点	2点	3点	4点	5点	6点
1	雑巾を持つ (自分で取りに行った雑巾でも、渡された雑巾でもOK)						
2	水道の蛇口をひねり、水を出す (適量でなくてもOK)						
3	蛇口の下に雑巾を持っていく						
4	雑巾を広げて流し台に置き、流水をあてる。						
5	手で雑巾の表面をこする						
6	雑巾を裏返して裏面をこする						
7	汚れが落ちている(ある程度でOK)						
8	水道の蛇口をしめ、水を止める (止め方がなくてもOK)						
9	雑巾を2つに折って持つ						
10	雑巾をしぼる(ある程度しぼれたらOK)						
コメント		10級	~10点	5級	31点~35点	合計得点	級
		9級	11点~15点	4級	36点~45点		
		8級	16点~20点	3級	46点~52点		
		7級	21点~25点	2級	53点~59点		
		6級	26点~30点	1級	60点		

※声かけは、全学年への指示ではなく、個人への声かけのことです

☹️は、検定10項目以外に独自で取り組んでいることを担任で記入して評価してください。

検定用紙 雑巾洗いA

さらに10項目の検
定項目以外に、児童生
徒に合った独自の取
り組みを記載する欄
を設けた。これは既存
の検定項目では、障害
が重い児童生徒の点
数が低く出てしまう
ので、各担任が行っ
ている独自の取組み
を検定項目として取
り上げ評価すれば、励
みになり自信が付き、
掃除を楽しいと思え、
意欲的に取り組める
ことを狙っている。

平成28年度の反省で、「高等部の生徒用に、より高度な技術や作業態度がはか
れるようにするにはどうするか」という課題が出て、検討を重ねた。その結果、
平成29年度より本格実施になった兵庫県の取り組み 特別支援学校技能検定のビ
ルクリーニング部門の検定項目「ダスタークロス（乾式モップ）」と「テーブル拭
き」の2種類を本校の清掃検定にも導入し、今年度より実施している。この2種
類は技能検定に準ずる評価項目にし、技能検定の取り掛かりに利用することも併
せて考え実施することにした。いざ実施してみると、「評価項目の文言や表記が分
かりづらい」「手順書をもっと生徒が見て分かりやすいものに！」とたくさんの意
見がでてきており、さっそく改善に向けて取り組んでいる。

また、ダスタークロスは、自在ぼうきでの掃きそうじや雑巾での拭きそうじに
取り組みにくい障害の重い児童生徒も扱いやすい掃除道具なので、従来の検定項
目「拭きそうじ」をダスタークロスで行うことができる利点があることがわかっ
た。より多くの児童生徒が清掃検定に積極的に取り組めるようになるのではない
かと期待している。

3 成果

清掃検定は、1月から3月の間に、小学部から高等部の生徒全員が1種目以上を
受検し、修了式で表彰状を授与している。教師が同じ視点で指導することで、学
びが定着しており、地域の施設・作業所の方から「東はりまの生徒は清掃が上手」
との声をいただいている。清掃検定の目標、評価項目、評価基準の見直しを今後
もはかりながら、児童生徒の力を伸ばしたいと考えている。

検定項目		ダスタークロス（机を出した教室をダスタークロスで掃除する）					
検定日		年 月 日		東はりま特別支援学校		学部 年 組 名前	
検定の観点		評 価（当てはまるところに○を記入）					
		観察と一緒にできた	目印等の実感を付けてできた	手順書を指しながらできた	少し間違ってもひとりでできた	間違いに自分で気づいて直した	最後まで正確にできた
		1点	2点	3点	4点	5点	6点
1	柄の高さを自分のあごあたりになるように調節する。						
2	①ヘッドのピンチを上げてクロスを張掛する。 ②ヘッドを柄に取り付ける。（柄が人にあたらないよう注意する）						
3	ヘッドを壁に当てないように壁際を1周掃除する。						
4	フローリングの目にそってまっすぐ拭く。 ※ふいたところを歩く。						
5	向きを変えると息は、回転したい方向のヘッドの柄を軸にして向きを変える。※ごみを落とさないため						
6	向きを変えて拭いていない所を戻ってくる。 （隣の列を拭く・前に拭いた部分1.4くらいを重ねて拭く）						
7	連続して柄から柄まで拭き掃除をする。 （決められた回数や、楕円はとて数えながら拭くのも連続とみます）						
8	ゴミを掃とさないようにクロスをはずす。 ※ピンチが取り止めている部分を下に戻す。						
9	ほうきとちりとって、ゴミを無い上げないように集めてとる。						
コメント		10点 9点 8点 7点 6点	~10点 10点~15点 16点~20点 21点~25点 26点~30点	5点 4点 3点 2点 1点	31点~35点 36点~41点 42点~47点 48点~53点 54点~	合計得点	級
						点	級

※声かけは、全体への指示ではなく、個人への声かけのことで

😊は、検定10項目以外に独自で取り組んでいることを担任で記入して評価してください。

新検定用紙 ダスタークロス